

## ユダヤ・イスラエルに思う<sup>⑪</sup> ディアスポラのユダヤ人（後編）

長谷川 修

一五世紀末にイベリア半島から追放されたユダヤ人は、北方のプロテスタント国と東方のオスマン帝国に逃れた。その後のユダヤ人は西欧と東欧で異なる道を歩む。

西欧のユダヤ人は都市のゲットーに隔離された。壁に囲まれた狭い場所に住み、外出できるのは昼間のみで、特別なバッジや帽子の着用を義務づけられた。

その後の啓蒙思想の進展に伴い、一八世紀末のフランス革命から一九世紀の国民国家成立時代に、各都市で逐次「ユダヤ人解放令」が出され自由の身となる。ハイネ、マルクス、メンデルスゾーンの父親たちは改宗キリスト教徒であり、またロスチャイルドをはじめとする銀行家・企業家が陸続した。

ただ、ユダヤ人に対する差別・蔑視が払拭されたわけではなく、一八九四年にフランスでドレフィス事件が起きた。この事件に危機感を抱いた世俗ユダヤ人ヘルツルの提唱で、「シオニズム運動」（シオンの丘（エルサレム）に戻る運動）が始まる。

一方、東欧のユダヤ人の最大の受入れ国はポーランドとその周辺国だった。彼らはシユテットル（小都市）と呼ばれる自治区に居住し、おおむね平穩に暮らし人口も増加した（一九世紀末の時点で、ポーランドのユダヤ人人口五〇〇万人は総人口の二二％）。

一八八一年のロシア皇帝暗殺にユダヤ人が加担していたことに端を発し、各地で「ポグロム」（ユダヤ人大襲撃）が起きた。難を逃れて東欧からアメリカへ渡ったユダヤ人は、一九世紀末から一九二四年で二〇〇万人にのぼり、一部の人はシオニストの指導でパレスチナへの入植を始める。

更に悲惨だったのは、ナチス・ドイツの人種浄化計画である。絶滅収容所での死者は六〇〇万人にのぼるが、犠牲者の大半は東欧のユダヤ人（ポーランド二七〇万人、ロシア二二〇万人、ハンガリー他八〇万人）だった。

大戦後のイスラエル建国で、安住の地を求めての一九世紀間に及ぶディアスポラは終焉するが、四囲を海に囲まれ定住を続ける日本人との比較は興味深い。